

檜の会

平成二十年
冬季
第二十五号

NPO法人「檜の会」事務局
京・東山やすい松小路
TEL/FAX 〇七五五二五〇八〇三

恭賀新年



お健やかに新年をお迎えの事を、心より大慶に存じ上げます。
本年は干支頭である子年でございます。何はともあれ新たな出発を感じながら
原点に戻る時でもあります。

特定非営利活動法人檜の会も、六年目の節を迎えることとなりました。
会員の皆様の熱い想い、またご協力ご支援を賜わりお蔭さまでここまで進んで
参りました。ひとへに御礼を申し上げます。

当会の趣旨は、日本の伝統文化の発展と育成を、という大変スケールの大きな
事を目標にしております。行事が開催される度、役員一同身を引き締めて参りま
した。

今年の新たな目標は、当会には心強い専門家の方々が多くいらつしやいます。
夫々専門分野の方々の指導のもと、会員の皆様にも積極的に企画・構成に携わっ
て頂き、事業内容の充実を図りたいと存じます。新年度は当会が益々発展致し、
会員を始め次世代にもしっかり受け継がれることを祈念いたします。

また、会員の皆様へのお願いとしましては、ご友人の方に本会の趣旨・活動を
お伝え頂き一人でも多くご加入下さるようお願い申し上げます。
お伝え頂き一人でも多くご加入下さるようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 檜の会

理事長 安田 紀美子

理事 一同

皆様のご意見、ご投稿など
お待ちしております。
E-mail BD50324@nifty.com

企画・編集／檜の会会報編集室
発行／季刊（一・四・七・十月）
<http://village.infoweb.ne.jp/hinoki/>

竹山襲名から十一年目を迎えて

津軽三味線奏者 二代目高橋竹山 ちくせん

檜の会の皆様、新年明けましておめでとうございます。年の始めに私の近況をお話させていただけます事を感謝申し上げます。

さてお正月といえ、一九九七年に渋谷のジアン、ジアンに於て二代目竹山襲名披露公演をさせていただいた月でございます。おめでたい月でもあり又、重たい月でもありました。かつての私は二代目として初代に恥じぬ様にとそればかりが先に立ち心身共に疲れ果てやっと舞台に立っている状態でございます。その結果、指がまったく動かなくなり、必然的に二〇〇〇年九月から二年半余り休業せざるをえませんでした。その頃と結婚が重なり主人の生家へ移り住み七年が過ぎました。日本海に面したちよつと山あいの、まさに自然の宝庫の中で暮らします。ここに居ますと重たいはずの一月も年と共に軽くなっていくのが実感できます。

その理由は：：あれほど住み慣れた東京が今では、二・三日もすると息苦しくなり早く家に帰りたい、戻りたいと思う心が何よりの証拠ではないでしょうか。皆様の心も体も軽い、素敵な年になります様に。

—豆知識—

『神社考』

除夜の鐘とともに神社・仏閣への初詣は、日本国中の正月最大最高の行事となる。その神社の祭神は、地域と生活に深く関係し、社名と社号には由来がある。

社号の**神宮**は、伊勢、橿原、熱田、平安、近江などがあるが、厳密には伊勢神宮(国家鎮護の最高神)のみの社号。皇室ゆかりのところが**大社**は、出雲、春日、諏訪、日吉などがあるが、元々は國譲りを行なった大國主大神を祭る出雲大社に用いられた。地域の中心となる格式高い神社をいったとされる。**宮**は、天皇や皇族を祭っているところなどに使われている。**神社**は、最も多く、**社**は、神社の略称である。

神社の数は、明治三十五(一九〇二)年には、十九万六三九八社であったが、明治時代の神佛分離令により、神社の合祀が活発になり平成十七(二〇〇五)年現在では、八万一一六六社に減少している。近畿には、兵庫三八五九、京都一七五二滋賀一四四二、奈良一三八一、大阪七一八、和歌山四四二社の順である。

(参考：中日サンデー版 二〇〇七・十二・二)

鼠の語源と「ねずみ戸長者」の伝説

昔から人と鼠の関係では、野ねずみの方が多く人々に害を与えていた。野ねずみは土に穴を掘って住むので、根棲(ねずみ)とよばれていたのが名前になったそう。白いねずみは大黒天の使いで福の神とされているが、昔はねずみが多くいるような家は裕福であったことから富のシンボルとされている。



全国にねずみ長者のお話はたくさんありますが、京都でねずみに関する伝説は少ないが**京都東山霊鷲山・正法寺(霊山)の神明宮に伝わる祢須美人(ねずみど)**の長者伝説がある。

永徳三(一三八三)年頃正法寺(霊山)の麓に住む長者は鼠が隠れ里より宝を送り届けたので栄えた。人々は祢須美人(ねずみど)の長者と叫んだ。どうして鼠に宝を貰うようになったかは伝えていないが、江戸時代の「山州名跡志」(一七一一年頃)に「鼠戸屋敷は霊山大門の前、南前方の畑地(二年坂のあたり)これなり」とある。

(参考：国阿上人絵伝・山州名跡志ほか)

一/寸/服一

「干支」は、「十干」と「十二支」を組み合わせるもので、「十干」を上、「十二支」を下にそれぞれの順番通りに組み合わせていきます。「甲子」(きのえね)「乙丑」(きのとうし)「丙寅」(ひのえとら)「丁卯」(ひのとう)……六十一番目で「甲子」(きのえね)にもどり、還暦を迎える。

十干

甲(木の兄↓きのえ)	乙(木の弟↓きのと)	子(ね)	丑(うし)	寅(とら)	卯(う)
丙(火の兄↓ひのえ)	丁(火の弟↓ひのと)	辰(たつ)	巳(み)	午(うま)	未(ひつじ)
戊(土の兄↓つちのえ)	己(土の弟↓つちのと)	申(さる)	酉(とり)	戌(いぬ)	亥(い)
庚(金の兄↓かのえ)	辛(金の弟↓かのと)	壬(水の兄↓みずのと)	癸(水の弟↓みずのと)		

十二支

「干支」は、「十干」と「十二支」を組み合わせるもので、「十干」を上、「十二支」を下にそれぞれの順番通りに組み合わせるもので、「十干」を上、「十二支」を下にそれぞれの順番通りに組み合わせるもので、「十干」を上、「十二支」を下にそれぞれの順番通りに組み合わせるもので……

「お知らせ」 「お問い合わせは、当会事務所まで」

●檜の会主催

◇新春の集い

とき 一月二十七日(日)午後四時〜
 ところ 「花楽」東山・八坂鳥居前下がる
 ゲスト 圓徳院住職 後藤典生師
 初舞 舞 花柳双喜美師匠
 胡弓 早瀬久恵氏

◇歴史・文学の集い

とき 二月二十三日(予定)
 講師 脇谷英勝氏(当会副理事長)

◇伝統工芸 金箔研究会

とき 三月二十九日(日)午後二時〜四時
 ところ 安井金比羅宮
 講師 近藤富士金(正明)師(当会副理事長)

●檜の会新年度1/4半期行事予告

◇嵐山三船祭り参加

とき 五月十八日(日)

※常磐津船に乗船して芸能を奉納します。限定十二名

◇NPO法人檜の会「総会」

とき 五月二十四日(土)

ところ 未定

◇伝統芸能鑑賞会

「浄瑠璃系邦楽を楽しむ」次世代に向けて……(学生招待)

第一回「常磐津」唄と舞とお話

とき 六月七日(土)

ところ 金剛能楽堂

出演 常磐津一佐太夫、常磐津都喜蔵他連中

演じ物 「一条戻り橋」、「釣女」

※当会の事業について、ご意見ご提案をお寄せ下さるようお願いいたします。